

# 特集 和歌山県新宮市と姉妹都市提携を締結し元和から令和へつながる絆



三原市と和歌山県新宮市は11月10日、両市の親善と交流を目的に姉妹都市提携を結びました。同日、新宮市役所で行われた調印式には、両市の市長が出席。盟約書を交わし、地域防災などさまざまな分野で協力していくことを確認しました。

▲三原市公式マスコットキャラクター やっさだるマン

▲新宮市Twitterキャラクター めはりさん

撮影場所:新宮城跡

## ■ 始まりは400年前

三原と新宮とのつながりができたのは400年前でした。元和5(1619)年、新宮城主であった浅野忠吉は、本家の国替えにより三原城へと移りました。その時に水先案内人として同行したのが、熊野の水主(水夫)衆。水主衆の一部はその後、現在の旭町に移り住んだといわれています。浅野忠吉をはじめとする三原浅野氏は、12代にわたり三原城主を務め、新田の開拓や学問・武芸の奨励など、城下町三原の発展



▲熊野の水主衆が崇拝していた熊野新宮をまつる東町の龍怨神社(熊野神社)

に貢献しました。

## ■ 昭和に始まった民間交流

昭和46年、三原市内の三藤家で、紀州北山一揆に関する古文書が発見されました。昭和48年、これを市民グループの三原市郷土を愛する会が新宮に持参し、披露しました。このことがきっかけとなり、市民同士の交流が始まりました。交流の輪はその後、行政にも広がり、両市の市長や議長が互いの市を訪れるなど絆を深めてきました。

## ■ 平成30年7月豪雨で多くの支援を

平成30年7月豪雨の影響で市内全域が断水となった際、和歌山県新宮市から、給水車と応援隊が駆けつけました。応援隊は田野浦小学校で7日間にわたって給水活動を行い、市民の生活を支えました。また、新宮商工会議所青年部のメンバーが災害ボランティアとして本郷地域で活動するなど、災害時に新宮市の皆さんから多くの支援を受けました。

図書館広報課 ☎0848・67・6006

# 新宮市ってどんなまち？

新宮市は、和歌山県の南東部に位置しています。温暖で高温多雨な気候風土により、豊かな水資源と恵まれた樹木の育成環境を持つまちです。

中世には熊野三山のひとつである熊野速玉大社の門前町として発展しました。明治以降は熊野材の生産・集散地として、製紙業や製材業で繁栄。今日まで熊野地方の行政、経済、文化、教育の中心都市として栄えてきました。

市内に世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産である熊野速玉大社や熊野古道「大雲取越」「小雲取越」「高野坂」などがあり、世界遺産のまちとしても知られています。



▲熊野速玉大社

境内には国の天然記念物に指定されている推定樹齢千年のナギの大樹があります。



◀めはりずし

高菜の漬物でご飯を包み込んだおにぎり。郷土料理百選にも選ばれた新宮を代表する郷土料理です。



▲三輪崎の鯨踊

毎年9月中旬の三輪崎八幡神社の例大祭で奉納される「鯨踊」は、約300年の歴史を持ち、日本遺産「鯨とともに生きる」のストーリーの構成文化財の1つです。

**新宮市の概要**(今年11月1日現在)

人口 28,368人  
世帯数 14,839世帯  
面積 255.23km<sup>2</sup>  
市の花 川さつき、ハマユウ  
特産品 めはりずし、さんま姿ずし、なれずしなど

**三原市からのアクセス**

- 鉄道で約6時間30分  
J R三原駅→J R新宮駅
- 自動車で約6時間40分  
山陽自動車道尾道IC  
→京奈和自動車道五條IC  
→国道168号

## 声 インタビュー



三原市郷土研究会 会長 帯賀信義さん  
三原市郷土を愛する会 会長 沖邊勝之さん

私たちは新宮と40年以上交流を続けてきました。きっかけは「三原市郷土を愛する会」の当時の会長が、三原市内で見つかった紀州との関係を示す古文書を、新宮(三輪崎)に持って行ったことでした。それから私たちの会や旭町の旭光会などが中心となり、住民同士での交流を続けてきました。お互いの町を訪れて寺社・史跡などを巡って、研修を行い、親睦を深めました。当時から市同士の交流につながればと考えていたので、姉妹都市提携を結んだと聞き、大変うれしく思っています。これを機に次世代を担う若者が、両市の歴史的なつながりに興味を持ち、交流を続けてくれることを期待しています。

古くからつながってきた三原と新宮。つながりができてきたちょうど400年を迎えた節目の年に、両市は姉妹都市提携を



▲給水活動を行う新宮市の応援隊の皆さん



▲調印式で互いの市旗を掲げる両市長・議長

携を締結しました。今後、地域防災をはじめさまざまな分野で協力し、両市の発展をめざします。